

園自己評価シート(令和6年度)

恵大保育園

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、恵大保育園では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後も保育内容等の充実を図ってまいります。

評価: 次の基準によって、評価欄にA・B・C・Dと記入する。

- A…十分わかる、十分にできている B…おおむねわかる、おおむねできている
C…あまりわからない、やや不十分 D…ほとんどわからない、改善を要する

【第1章】総則

1 保育所保育に関する基本原則

	評価項目	評価 8月	評価 3月	具体的な取り組み・改善策
保育所 保育指針	①保育所保育指針に日ごろから目を通すようにしている。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針を日頃から見ると習慣や研修を通し、より保育に生かせる様にしていく。 ・個別指導案など、子ども1人ひとりに合った内容になるよう、子どもの発達段階やそれぞれの課題を理解・意識していく。
保育所の 役割	①子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している。	A	A	
	②子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	A	A	
	③「保育の目標」を達成するために「ねらい」があり、「ねらい」をより具体的にしたもののが保育の「内容」であることを理解している。	B	A	
	④子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行わなければならないことを理解している。	B	A	
保育の方法	①子ども一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている。	B	B	
	②子ども主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。	B	B	
環境	①健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気をつけている。	B	A	
社会的責任	①個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決策を図るよう努めている。	A	A	

2 養護に関する基本的事項

養護の理念	①養護と教育を一体的に行うことを意識して保育に当たっている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表情・行動を含め、スキンシップによる情報(体熱感・清潔感・皮膚の状態など)収集、コドモンでの保護者からの情報確認、担任からの情報収集をしっかり行う。
	②「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	A	A	
生命の保持	①一人一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	B	B	
	②生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	B	B	
情緒の安定	①子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	A	A	
	②自分の思いや意見をはっきり伝えることができるよう配慮し、尊重している。	A	A	

3 保育の計画及び評価

指導計画の 作成	①日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の練習を行いながらも、主体的な活動を促す環境構成の工夫し、取り入れていく。 ・子ども一人ひとりの発達状況をしっかり確認、把握し、個別の成長に合わせて計画を作成していく。
	②各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B	B	
	③日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	B	B	
	④3歳未満児は、一人一人の子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	B	B	
	⑤子どもが主体的に活動できるよう環境設定している。	B	B	
指導計画の 展開	①子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	B	B	
評価改善	①毎日の終わりに、保育を振り返り、コドモンの『今日の気づき・振り返り』を確認(記入・申請)している。また、次の日の計画を確認(記入)している。	A	A	

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

資質能力	①育みたい資質、能力を理解している。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・10の姿の理解を理解し、保育にしっかり取り入れ、取り組んでいく。
	②長期的な見通しをもった計画を立て、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B	B	
姿	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」 ^{注1} を理解し計画を立て、保育にあたっている。	B	B	

注1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 共同性 エ 道徳性・模範意識への芽生え オ 社会生活との関わり カ 思考力の芽生え
キ 自然との関わり・生命尊重 ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言葉による伝え合い

【第2章】保育の内容

1 乳児保育に関わるねらい及び内容 (0歳児担当者記入)

	評価項目	評価 8月	評価 3月	具体的な取り組み・改善策
基本的事項・ ねらい及び 内容	①離乳食については、家庭や調理師、栄養士と連携を取りながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。	B	A	・子どもたちの発達を理解し、子どもたちの気持ちに寄り添い、健康に留意して、毎日の保育にあたっていく。 ・離乳食の進みが遅い家庭には声かけしたり、給食室に相談したりしながら、スムーズに離乳食から普通食に行こう出来るようにしている。
	②特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A	A	
	③一人一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている。	B	B	
	④午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸のSIDSチェックを5分ごとにし、記録している。	A	B	
保育の実践 に関わる 配慮事項	①生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせて様々なものに触れさせている。	B	B	
	②上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	B	B	
	③おむつの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している。	B	A	
	④発声や喃語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	A	A	
	⑤誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	A	A	

2 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容 (1、2歳児担当者記入)

健康	①生活リズムについては、一人一人の子どもの状態に合わせて対応している。	B	B	・遊びの中でトラブルや言いたいことは「うん」「いや」などではなく自分の思いはしっかりと言葉に出すように促していく。 ・年齢に応じた運動や本人が挑戦したいときは大いに褒め意欲を引き出していく。 ・子どもたちが衣服の着脱、ジャンパーのチャックなど声かけ手助けをして、出来たときは「できたねすごい」など、次も自信を持ってやれるようにしていく。
	②走る、跳ぶ、登る、引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	A	A	
	③楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	A	A	
	④身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A	A	
	⑤子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A	A	
	⑥一人一人の排泄状況に応じた配慮をしている。	B	A	
人間関係	①保育士等の安心した関わりの中で、園生活を送れるようにしている。	B	A	
	②他の子どもとの関わり方を少しずつ身につけられるよう仲立ちをしている。	B	A	
	③自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A	A	
環境	①玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合ったものを選び使用させている。	A	B	
	②積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A	A	
	③見る、聞く、触れるなどの感覚の動きを豊かにしている。	A	B	
言葉	①楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやりとりができるようにしている。	A	A	
	②絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	B	A	
表現	①水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	A	A	
	②音楽、リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	B	B	
	③子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A	A	
保育の実践 に関わる 配慮事項	①体の状況、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分行うことで感染症を予防している。	B	B	
	②事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	A	A	
	③午睡中は体を仰向けにすることを認識して、体温、顔色、呼吸のSIDSチェック(1歳児10分、2歳児15分ごと)をし、記録している。	A	A	
	④進級などで保育士が変わる場合は、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	A	A	

3 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容 (3、4、5歳児担当者記入)

健康	①生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	B	A	・遊ぶ際に危ないところは全体で話し、安全に遊ぶようにする。 ・年長にもなると友だちとの関わりが複雑になり、トラブルにつながることもあるが、その都度丁寧に関わりを持っていく。
	②食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	A	A	
	③十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	B	A	
	④園内外の危険な場所を知り、安全に気をつけて遊ぶように働きかけている。	A	A	
人間関係	①友達と共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている。	B	A	
	②良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B	B	
	③友達と生活する中で決まりの大切さに気づき守れるように配慮している。	A	B	
	④生活や遊びの中で、意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉かけや援助をしている。	A	A	
	⑤身近な友達との関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	A	B	

	評価項目	評価 8月	評価 3月	具体的な取り組み・改善策
環 境	①園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B	B	・教材絵本などを通していろいろに興味を持つようにする。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目を意識し、保育にあたる。
	②伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B	B	
	③自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	B	B	
言 葉	①人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身につけさせている。	A	A	
	②絵本や紙芝居などを通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくように心掛けている。	A	A	
	③子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B	A	
表 現	①音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	A	A	
	②一人一人の子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心掛けている。	B	B	
保育の実践 に関わる 配慮事項	①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ^{注1} を理解し保育にあたっている。	B	B	
	②幼児期の体を使った遊びが、単に運動機能の獲得だけではなく、心の発達などへも影響を与えることを理解している。	B	B	

4 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に 関わる配慮 事項	①一人一人の子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B	A	・それぞれの個の病気や怪我があったことなどをこの都度記録しておき、要録に反映させる。 ・年長児と小学5年生との交流会や学校見学を通して、学校への期待を持たせる。 ・地域の行事に和太鼓で参加する。
	②子どもが安心感を持ち、生活できるようにしている。	A	A	
小学校との 連携	①小学校との意見交換の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	C	A	
	②子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	C	A	
地域社会との 連携	①地域向けの園だよりで、園の様子や行事などについて地域の人々に見てもらえるようにしている。	C	C	
	②ボランティア、体験保育の人々を受け入れている。	A	C	

【第3章】健康及び安全

1 子どもの健康支援

健康発達	①感染症発生時に、発生状況や感染予防策について保護者に通知している。	A	A	・食物アレルギー児の給食調理、配膳はミスがないよう、アレルギー用食器を使い、個別のお盆(名前、アレルギー一名入り)を使用し、席を離すなどとする。
	②不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	B	A	
健康増進	①健康診断と歯科検診、尿検査の結果について、保護者や職員に伝達している。	A	A	
	②子どもの健康情報を共有し、子どもの既往歴(アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など)について、すべての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A	A	
疾病等への 対応	①アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、医師の診断を得て、適切な対応を行っている。	A	A	
	②アレルギー疾患を持つ子どもに対し、保育士、栄養士、調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A	A	

2 食育の推進

保育所の特性を生かした 食育	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A	A	・食器の配置、スプーン・箸、食器の持ち方、食事時の姿勢(椅子の座り方)は個人々に伝えていく。 ・今年度から離乳食食材チェック表を見直した。 ・収穫した野菜を新鮮なうちに給食で提供した。
	②乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食器の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A	A	
	③コドモンで年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	A	A	
環境整備	①調理員、栄養士、保護者と連携をもち、個々に合わせた対応を行っている。	A	A	
	②子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心掛けている。	A	A	

3 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び 衛生管理	①園内の清掃がなされ、玩具等の消毒を定期的に行っている。	A	A	・消毒はこまめに行い、衛生管理に努めており、安全に遊べるように配慮していく。 ・ヒヤリハット、事故報告はその時だけでなく、その月の安全管理会議でも振り返っているため、より事故防止につながっている。
	②生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	B	A	
	③園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている。	A	A	
	④子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	A	A	
事故防止 及び 安全対策	①ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	A	A	
	②睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A	A	
	③外部からの侵入に対し、適切な対応がとれる。	B	B	
	④園庭の危険物の排除や固定遊具の点検などを常に行っている。	A	A	

4 災害への備え

安全確認	①消火器、火災受信機の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	A	A	・避難訓練時の通報の仕方や避難場所・経路を改めて確認する。
	②施設の安全点検を行い、改善している。	A	A	
避難への 備え	①様々な災害を想定したり、毎月消火避難訓練を行っている。	A	A	
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法を確認している。	A	A	

【第4章】子育て支援

1 保育所における子育て支援に関する基本的事項

	評価項目	評価 8月	評価 3月	具体的な取り組み・改善策
支援と 留意事項	①保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A	A	・保護者との会話や連絡帳でのやりとりを大切に、家庭状況や園での状況を共有する。
	②保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	A	A	

2 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との 相互理解	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	C	A	・送迎の時など、保護者に園での様子をしっかりと伝える。必要に応じて個別面談を行う。
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	A	A	

3 地域の保護者等に対する子育て支援

避難への 備え	①様々な災害を想定したり、毎月消火避難訓練を行っている。	A	A	・地域との連携を深めていく必要がある。
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法を確認している。	B	A	
連携	①地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	B	A	

【第5章】職員の資質向上

1 職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員 の求められ る専門性	①相手の立場に立った挨拶、電話、来客者対応が出来ている。	A	A	・相手の気持ちを考慮し、公平に対応し、話をするようにしていく。 ・プライバシーの保持については必ず話す事がないように意識する。
	②自己の健康管理が出来ている。	A	A	
	③保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A	A	
	④保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A	A	
質の向上に 向けた組織 的な取組	①業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	A	A	
	②公平に人の話を聞いたり、話ができ、正確に伝達できる。	B	A	
	③問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	B	A	

2 職員の研修等

研修の活用	①積極的に研修会に参加し、新たな課題と情報の収集をしている。	B	A	・積極的に参加する。
-------	--------------------------------	---	---	------------

総評	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解し、子どもの人格尊重を意識して保育を行っているが、日頃より、保育所保育指針に目を通し、5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目等を意識しながら、保育を理解し行っていくことが必要である。気軽に受けられる研修等も取り入れていく。評価が変わらない項目に関しては、一人ひとりの意識だけでは改善されにくいようなので、職員間での連携が更に必要になると思われる。 自己評価、チェックリスト、研修等を通し、理解を深め、子どもたちの成長を支援し、安心できる生活環境を整え、豊かな人間形成を促進出来るようにしていく。			
----	--	--	--	--